

# 藤田 道雄先生を偲ぶ

中高等学校校長 土井 邦孝



藤田先生のご逝去の報に接し、深い悲しみにくれています。私たちには先生の存在はあまりにも大きく、それぞれの先生方や卒業生諸君にも、先生の面影が、思い出が走馬灯のように駆けめぐったことでしょう。謹んで哀悼の意を表します。

私たちの追手門学院中高等学校は、今まさに教育改革の真

っ只中にありますが、三十数年前の教育改革では藤田先生が中心となって推進されたとお聞きしています。

高潔なお人柄に加えて、教育への熱い想いを滾らせておられた先生は、追手門に学ぶ全ての生徒たちに温かい人間への成長を願われ、本校の生徒指導の基本である豊かな人間性の育成に邁進されました。

生徒は自主性・民主性・組織性を育むという、当時としては斬新な教育を展開し、その精神は、後に「教育は死なず」が社会的に話題を集める時代背景と重なり合って、「大阪に追手門あり」という高い評価を得て、生徒中心の教育実践校として、各方面から大きな注目を浴びました。

追手門学院中高等学校では、生徒一人一人が学校生活で起こる諸問題を自らの課題として捉え、相互の意見交換を行ない、集団としての結論を規範として行動に生かすという生徒指導を展開してきています。言い換えますと、「自分たちの生活環境を自分たちの手で創り上げる」という方針が確立しているということです。

この追手門イズムは多くの卒業生の生き方の中に脈々と根付いていますし、今も在校生にしっかりと受け継がれ、とりわけ安威祭や修学旅行などの学校行事を通して、追手門イズムが体現され、学校生活を充実させる大切な機会として位置付けられています。

個人的な話になりますが、私には厳しい師匠のような存在であられました。日常の言葉遣いや生徒への対応など、教師としてのイロハを事細かく指導していただきました。多分生意気な返事を繰り返していたと思いますが、先生はそんな私に根気強く接して下さいました。先生のお気持ちを深く、正しく理解できるようになりましたのは、たくさん後輩の先生方を職場に迎える年齢になってからで

した。私自身ができなかったことを、自分の言葉として後輩に平然と求めている自分に気付き、恥ずかしくなることしばしばです。

また、先生には花を、自然を愛でる気持ちを、広い心を教わりました。毎年桜の花が咲くころになりますと、先生のお招きが待ち遠しく、みんなでお宅に押しかけました。奥様を始め、ご家族お揃いのおもてなしが心地よく、桜を肴に美味しいお料理やお酒を心いくまで堪能させていただきました。あの時の先生の温かいぬくもりが、この文章を書き始めると同時に、鮮明に蘇ってきます。

今年の春も新人歓迎の宴を万博の桜通りで催し、藤田先生との楽しい思い出に浸りながら、大いに盛り上がりました。これからも桜の季節には、追手門の後輩はみんなで集まって一夜の宴に興じ、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

4月の初めにご入院されたとお聞きして、石川先生と杵築先生と一緒に、岐阜の病院にお見舞いにお伺いしました。顔をお見せするとたいへん喜んでいただき、早速いつものように学校の状況をお聞きにられました。先生には追手門のことが心配でしょうがないといったご様子で、私たちは持参した学校案内や資料をお見せしながら、生徒の様子や3月の大学合格状況を報告いたしました。「素晴らしい。よく頑張ったね。」とたいへんお喜びになられて、生徒へのお褒めの言葉と私たちへの労いの言葉をいただきました。不肖の後輩である私には、最後にお目にかかれた機会にこのような報告ができたことは、たいへん嬉しく、幸せなひとときであったと感謝しています。先生ありがとうございました。

追手門学院中高等学校は、これからも先生が築いてこられた高い理想を遂いで、光り輝く学校として努力していくことをお誓いして、先生のご霊前に捧げたいと思います。安らかに眠り下さい。

平成16年5月7日ご逝去

## 追悼

今から37年前の高校時代に藤田先生は小柄で髪はオールバック、にがむしを噛んで皆を諭す様な口調で授業をされていた姿が目につかびます。でも、あの姿をみる事はできません。我々の青春時代の中の藤田先生さようなら・・・心よりご冥福をお祈り致します。

15期生(順不同) 池田 達郎  
高瀬 修三  
森田 和明  
中村 正廣  
大草 義彰  
桜井 勇治 他、旧3年4組一同